も東の小国に大乗経の機ある歟。肇公記云、〈「茲典は東北の小国に有縁なり」〉等云云。法華経は東北の国に縁ありとかゝれたり。安然和尚云、〈「我日本国皆大乗を信ず」〉等云云。恵心一乗要決に云、「日本一州円機純一」等云云。釈迦如来・弥勒菩薩・須梨耶蘇摩三蔵・羅什三蔵・僧肇法師・安然和尚・恵心先徳等の心ならば、日本国は純に法華経の機也。一句一偈なりとも行ぜば必得道なるべし。有縁の法なるが故也。たとへばくろかねを磁石のすうが如し。方諸の水をまねくにたり。念仏等の余善は無縁の国也。磁石のかねをすわず、方諸の水をまねかざるが如し。故に安然釈云、〈「如実乗に非ずんば恐らくは自他を欺かん」〉等云云。此釈の心は、日本国の人に法華経にてなき法をさづくるもの、我身をもあざむき人をもあざむく者と見たり。されば法は必国をかんがみて弘べし。彼国によかりし法なれば必此国にもよかるべしとは思べからず是四。

又仏法流布国においても前後を勘べし。仏法を弘る習、必さきに弘ける法の様を知べき也。例せば病人に薬をあたふるにはさきに服したる薬の様を知べし。薬と薬とがゆき合てあらそひをなし、人をそんずる事あり。仏法と仏法とがゆき合てあらそひをなして、人を損ずる事のある也。さきに外道の法弘まれる国ならば仏法をもつてこれをやぶるべし。仏の印度にいでて外道をやぶり、まとうか・ぢくほうらんの震旦に来て道士をせめ、上宮太子和国に生て守屋をきりしが如し。仏教においても、小乗の弘まれる国をば大乗経をもつてやぶるべし。無著菩薩の世親の小乗をやぶりしが如し。権大乗の弘まれる国をば実大乗をもつてこれをやぶるべし。天台智者大師の南三北七をやぶりしが如し。而に日本国は天台・真

言の二宗のひろまりて今に四百余歳、比丘・比丘尼・うばそく・うばひの四衆皆法華経の機と定りぬ。善人悪人・有智無智、皆五十展転の功徳をそなふ。たとへば崑崙山に石なく、蓬莱山に毒なきが如し。而を此五十余年に法然といふ大謗法の者いできたりて、一切衆生をすかして、珠に似石をもつて珠を投させ石をとらせたる也。止観五云、「瓦礫を貴て明珠なり」と申は是也。一切衆生石をにぎりて珠とおもふ。念仏を申て法華経をすてたる是也。此事ば申せば還てはらをたち、法華経の行者をのりて、ことに無間の業をます也。[五]

但とのは、このぎをきこしめして、念仏をすて法華経にならせ給てはべりしが、定てかへりて念仏者にぞならせ給てはべるらん。法華経をすてゝ念仏者とならせ給はんは、峯の石の谷へころび、空の雨の地におつるとおぼせ。大阿鼻地獄疑なし。大通結縁の者の三千塵点劫を、久遠下種の者の五百塵点を経し事、大悪知識にあいて法花経[9]をすてゝ念仏等の権教にうつりし故也。一家の人々念仏者にてましましげに候しかば、さだめて念仏をぞすゝめまいらせ給候らん。我信たる事なればそれも道理にては候へども、悪魔の法然が一類にたぼらかされたる人々也とおぼして、大信心を起御用あるべからず。[10]大悪魔は貴き僧となり、父母兄弟等につきて、人の後世をばさうるなり。いかに申とも、法花経をすてよとたばかりげに候はんをば御用あるべからず。

まづ御きやうさくあるべし。念仏実に往生すべき証文つよくば、此十二年が間念仏者無間地獄と申をば、いかなるところへ申いだしてもつめずして候べき歟。よくよくゆはき事也。[11]法然・善導等がかきをきて